

二〇一八年九月七日

漁火のくつきり見えて瀬戸良夜
鈴虫や郵便局のカウンター
苑訪へば閉鎖と札や台風禍

宏 虎

よし女

たか子

二〇一八年九月六日

憤怒せる仁王の背より秋の声
独り居の祈るほかなき台風裡
過疎の里案山子総出の峽田かな

ぼんこ

はく子

うつぎ

二〇一八年九月五日

爽やかや検診結果異常なし
夫の忌を修し安堵や虫の夜

菜 々

そうけい

二〇一八年九月四日

裏山の木々修羅場めく台風裡
一湾に轟めく船や天高し

三 刀

こすもす

野分過ぎまこと大きな夕日かな

やよい

台風一過青空映すにはたづみ

菜 々

台風裡テレビを見たり窓見たり

明日香

台風裡部屋から部屋へうろろす

う つぎ

新聞を配る音せり台風裡

せいじ

虫すだく昼間の嵐の嘘のごと

う つぎ

二〇一八年九月三日

孫からの肩叩き券敬老日
露天湯に母の背流す月明り

宏 虎

智恵子

二〇一八年九月二日

立直る秋草に老い励まされ
風掬ひ闇裏返す風の盆
稔り田や鎮守の森を要とし
浜広く人影を見ぬ秋の海
古民家の土間に一筋蚊遣香
摩尼車廻す山門萩しだる

明日香

宏 虎

よう子

あさこ

愛 正

こすもす

二〇一八年九月一日

工事場に指差喚呼飛ぶ防災日
柿たわわ瀬音高鳴る吉野道

なつき

菜 々

毎日句会みのる選・二〇一八年九月九日